

頭部外傷治療に際しての ケイセントラ使用経験

静岡市立静岡病院 脳神経外科

米澤 慎悟

はじめに

当院では心臓・循環器系疾患の患者さんが多く通院しており、抗凝固療法としてワーファリンを内服されている方も少なくありません。また近年高齢者の転倒外傷も多く、ワーファリン内服中の頭部外傷患者さんが緊急手術になることもあり、その際ワーファリンの拮抗薬であるケイセントラが有用であることを経験しましたので、ご報告致します。

当科で頭部外傷による緊急手術で ケイセントラ投与されたケース

2018年5月～2020年12月までに
ケイセントラを投与した頭部外傷10症例

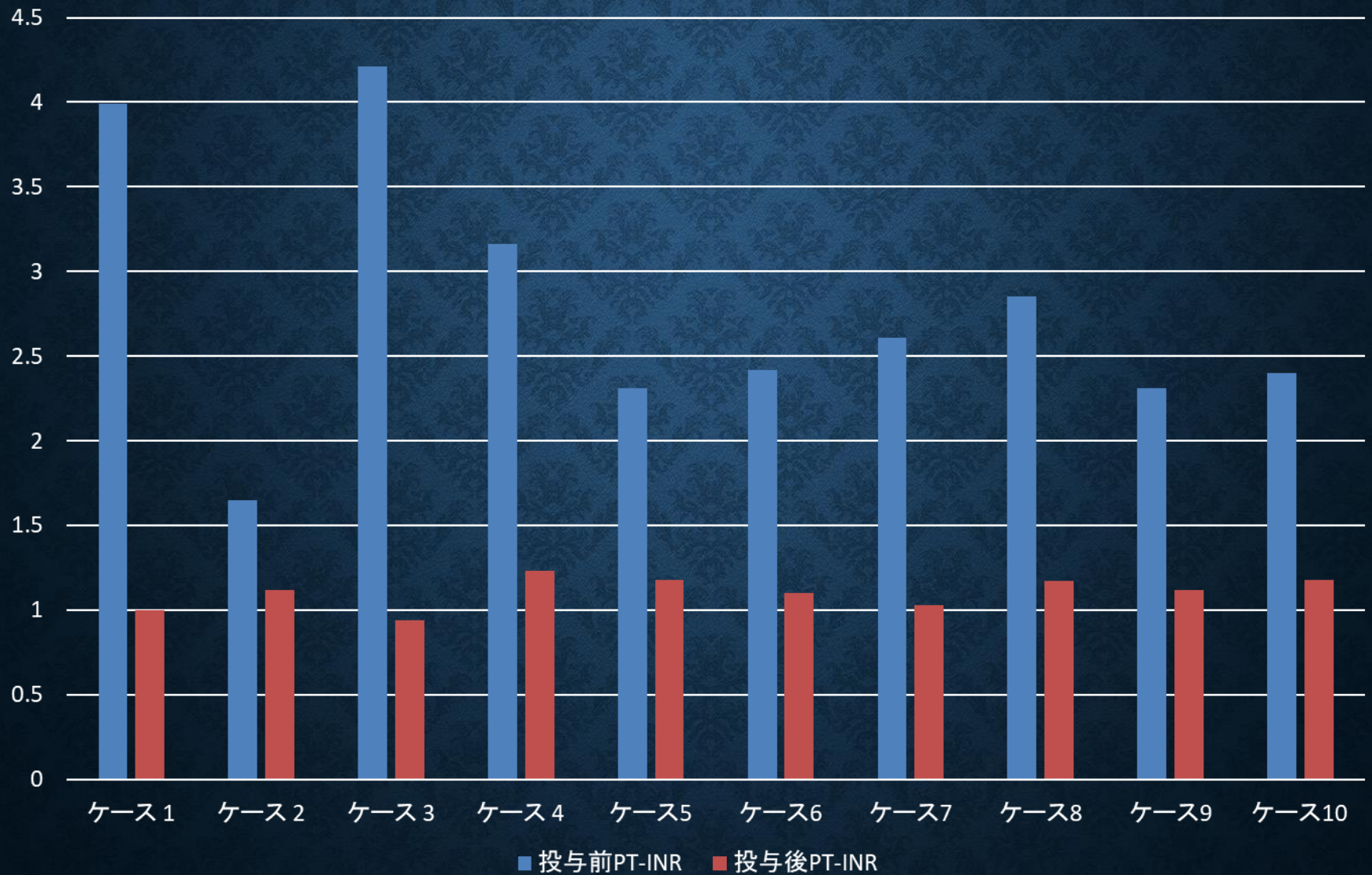
男性：女性＝8：2

平均年齢＝77.7歳
(50～90歳)

急性硬膜下血腫：3例

慢性硬膜下血腫：7例

ケイセントラ投与前後のPT-INR



ケイセントラ投与した結果

ケイセントラを投与すると数十分程度という短時間でワーファリンの効果を拮抗し、その評価の目安であるPT-INRが速やかに正常値である1.20以下に下降していました。

Case3

82歳男性、転倒、頭部受傷後に頭痛、嘔吐出現したため、当院受診されました。来院後に意識障害も起こされ、頭部CTで急性硬膜下血腫を認めました。ワーファリン内服中、初回PT-INR4.21にてケイセントラを2000単位投与し、速やかにPT-INRが0.94まで低下したことを確認して、緊急で開頭血腫除去術を行いました。術後、状態は完全回復し、後遺症なく自宅退院されました。

考察

今回の10症例ではケイセントラ投与後、速やかにワーファリンが拮抗され、止血が得られやすい状態となり、その後の手術治療の良い結果が得られました。

近年ワーファリン以外の抗凝固療法中の方も多く、その場合は適応効果ないため、限定的な使用になることについては注意が必要です。

まとめ

ワーファリン内服中の頭部外傷で緊急手術が必要な10症例について、ケイセントラの投与が有効であったので、ここに報告致しました。
